

急性期から疼痛専門医による治療を受けた帯状疱疹痛患者の神経障害性疼痛にみられる要素の検討

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-05-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石川, 理恵 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002204

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2399 号

急性期から疼痛専門医による治療を受けた帯状疱疹痛患者の神経障害性疼痛にみられる要素の検討

(Investigation of neuropathic pain component by the stage of a disease of the herpes zoster associated pain patients received pain clinic treatments)

石川 理恵 (いしかわ りえ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

帯状疱疹関連痛患者を対象とした以前に我々が行った後向き調査では、病期に関わらず、神経障害性疼痛の要素が多く、VAS も高値であった。今回は同一患者の追跡調査を前向きに行い、病期ごとの神経障害性疼痛の要素を検討した。対象は、2013 年 6 月から 2015 年 1 月に受診した発症 30 日以内の帯状疱疹関連痛患者 94 人とした。神経障害性疼痛スクリーニング質問票 (Japan-Q)、Pain DETECT Questionnaire (PDQ) の 2 つの神経障害性疼痛のスクリーニング質問票を用い、対象患者を 6 か月間追跡し、皮疹出現から 30 日までの急性期、1~3 か月までの亜急性期、4 か月目以降の慢性期の各病期で質問票、Visual analogue scale(VAS)を施行した。その結果、追跡調査ができたのは 78 人であった。各病期のスコアの中央値を急性期：亜急性期：慢性期の順で示す。Japan-Q スコア 12：4：3、PDQ スコア 15：9：7、VAS (mm) 71.5：27.5：9.5 であった。神経障害性疼痛の要素が高い Japan-Q スコア 9 点以上の割合は、急性期 53 人 (68%)、亜急性期 14 人 (18%)、慢性期 10 人 (13%)、PDQ スコア 11 点以上の割合は、急性期 61 人 (78%)、亜急性期 35 人 (45%)、慢性期 21 人 (27%) であった。Japan-Q スコアと VAS の相関係数は急性期 0.38、亜急性期 0.38、慢性期 0.46、PDQ スコアと VAS の相関係数は急性期 0.42、亜急性期 0.29、慢性期 0.44 であり、両質問票において慢性期中等度の相関を認めた。帯状疱疹痛の病態は、皮膚炎と神経炎の合併であるが、急性期の強い痛みを持つ患者は、神経障害性疼痛に該当する痛みの性状を有しており、神経炎の重症度がより反映されている可能性がある。当科を急性期に受診した患者は、神経障害性疼痛の要素のスコアと VAS が高値であったが、経時的に両者とも低下した。したがって、自然緩解の加味は否定できないが、他施設で難渋する患者に対しても、発症初期にペインクリニックを受診し適切な治療を受けることで、治療効果が得られていると考える。